

科目「保健」

献血の意義や現状について理解を深めるグループワーク

北海道三笠高等学校

○取組の工夫

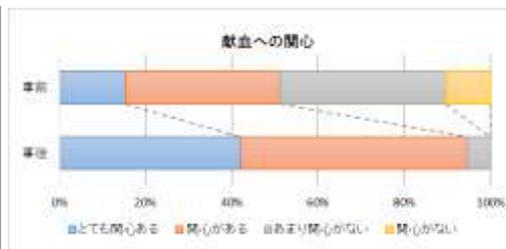
- ・ 献血に関心がもてるような発問
- ・ 学びを深めるためのグループワーク

科目「保健」指導案（抜粋）

【本時の目標】 献血の意義や現状について意欲的に学ぶ

【本時の展開】

- 献血に関する質問の答えをグループごとに考える。
（質問）①日本人の血液型を多い順に並べると？
②「約3,000人」 何の人数？
③輸血の使用で一番多い状況は？
④（グラフから）献血に関する現状や課題は？
⑤④を踏まえて、どのような取組が考えられるか？
- 考えられる取組例
 - ・ 学校の授業
 - ・ サービス付加
 - ・ 広告の工夫
 - ・ SNS などによる呼びかけ
 - ・ 痛くない、怖くないと思える環境づくり 等



○成果等

- ・ グループワークを通して、新しい気付きや斬新なアイデアが浮かぶなど、学びを深めることができた。

科目「保健」

血液センターとの打合せやテキストを参考にしたオリジナル資料

北海道札幌西陵高等学校

○取組の工夫

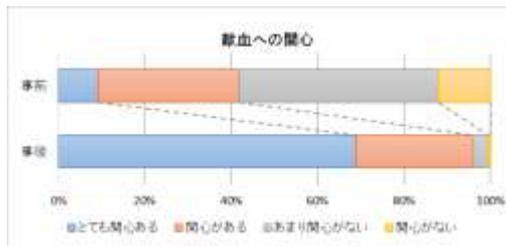
- ・ 血液センターとの打合せによるオリジナル資料の作成
- ・ 1 単位時間の提示資料の精選

科目「保健」指導案（抜粋）

【本時の目標】 献血の意義や制度について理解を深め、社会の健康のために主体的に活動する意欲をもつ。

【本時の展開】

- オリジナル資料とワークシートを使い、献血に関する質問の答えを考える。
 - ・ グループで献血に関する素朴な疑問を考える。
 - ・ 解説を聞き、理解を深める。
 - ・ グループで献血への協力者が増加するためのアイデアを考える。
- 【授業後の生徒の声】
 - ・ 命をつなぐボランティアなので、自分も力になりたい
 - ・ 貧血のため献血はできないが、もっと話題にしたい など



○成果等

- ・ 授業の資料を整えたことにより、担当者が変わったり、複数で担当したりする場合にも対応が可能となった。

科目「保健」・「国語表現」・「情報処理」

教科の特徴を生かした教科横断的な調べ学習と校内外での発表 北海道蘭越高等学校

○取組の工夫

- ・各教科の特徴を生かした教科横断的な取組
- ・町の行事で取組を紹介

取組の概要

【目標】 献血について理解を深めるとともに、表現方法を工夫して発表する。

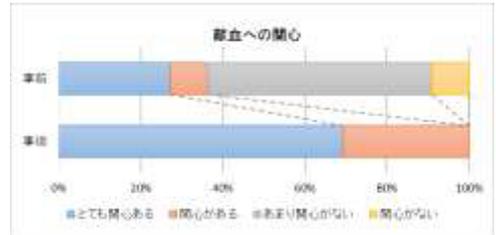
【計画】 対象生徒 2年次

○実施時間 合計12時間

- ・1～2時間目 興味関心ある内容ごとのグループ編成
- ・3～6時間目 調べ学習（インターネット、図書館等）
- ・7～11時間目 プレゼンテーション準備
- ・12時間目 発表会

【授業を終えて】

発表は、他者に分かりやすく伝えることを意識させたことにより、発表者だけでなく、発表を聞いていた生徒の献血に対する印象にも変化が見られた。



○成果等

- ・厚生労働省等の資料や図書館を活用したことにより、充実した調べ学習を実施することができた。

科目「保健」 / 講話

血液センター職員を講師とした「いのちをつなぐ献血講話」

北海道伊達高等学校

○取組の工夫

- ・講話と科目「保健」につながりをもたせて実施

「いのちをつなぐ献血講話」

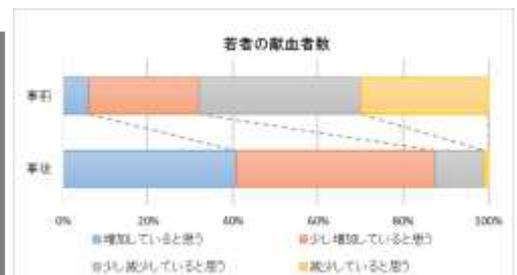
【目標】 献血についての理解を深めるとともに、血液が必要な患者に血液が不足していることや若者の献血離れが進んでいる現状を知る。

【講師】 北海道赤十字血液センター 成田直之氏・鈴木清晃氏

【対象】 2年次

【講話を終えて】

講話の実施前に、血液に関する知識をより深めるために、科目「保健」において血液に関する事前学習を実施したことにより、講話を通して、より専門的な知識について理解を深めることができた。



○成果等

- ・講話を通して、献血の重要性等について学び、関心が高まったことから、今後も継続した学習が必要である。

科目「保健」／ 献血セミナー

全校生徒を対象とした血液センター職員による献血セミナー

北海道日高高等学校

○取組の工夫

- ・ 事前打合せにより、セミナー講師とねらいを共有

献血セミナー

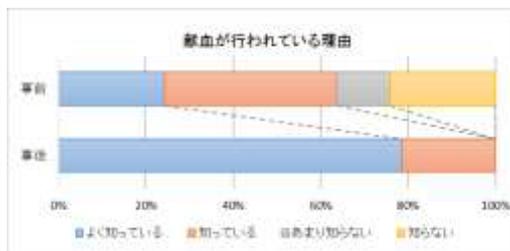
【目標】 血液センターの活動等の説明を通し、わが国における輸血や献血の現状や意義等について正しい知識を身に付ける。

【講師】 北海道赤十字血液センター帯広出張所長 桑原昭氏

【対象】 1～3年次

【講話を終えて】

献血に対する理解が深まり、病気やけが等により血液を必要としている人が多くいる現状や献血の必要性についての理解が深まった。



○成果等

- ・ 科目「保健」やセミナーを通して、献血に対する理解が深まったことから、他教科においても触れる機会を設けることを検討する。

科目「保健」・ 総合的な学習の時間

若者の興味をひく献血キャンペーンを企画

北海道知内高等学校

○取組の工夫

- ・ 献血バスの見学
- ・ 普通救命講習において献血の意義について説明

科目「保健」指導案（抜粋）

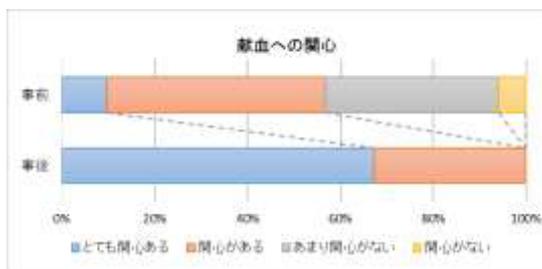
【本時の目標】

- ・ 命を支える活動のひとつである献血について理解する。
- ・ 近年の献血者の傾向について知り、それらの対策や社会の一員として自分にできることは何か考える。

【対象】 1年次

【本時の展開】

- テキスト及び動画等を使用し、献血についての説明
 - ・ 献血の歴史、採取した血液の行方、輸血を受けた人の経験（動画）など
- 献血バスの見学、血液センター職員による説明
- 学んだ知識を基に「若者に献血に来てもらうためのキャンペーン」をテーマにグループワーク、発表



○成果等

- ・ 授業を通して、他の命を助けるために何かしたいという助け合いの心の育成につながった。

科目「保健」・総合的な学習の時間 / 講話

血液センター職員による講話「献血は血の通った温かい贈り物」

北海道江差高等学校

○取組の工夫

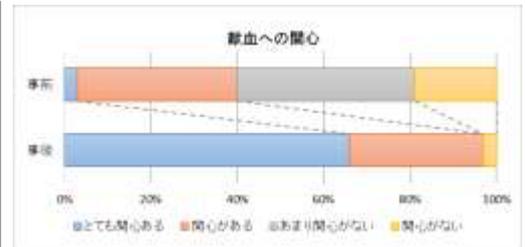
- ・タイムリーな事例を題材とした科目「保健」における学習

講話「献血は血の通った温かい贈り物」

【目的】 将来の献血を支える高校生に対して、献血の意義や制度などについて正しい理解を深めるとともに、講演を通して命の大切さを再認識する。

【講師】 北海道赤十字血液センター函館事業所 保村毅氏

【対象】 3年次



科目「保健」

【本時の目標】

献血の意義や制度などについて理解を深めるとともに、命の大切さを再認識できるようにする。

【対象】 1年次



○成果等

- ・学習後、生徒の献血への関心は高まり、とくに献血に対する肯定的な意見が多くみられるようになった。

科目「保健」・「生物基礎」 / 献血セミナー

血液センター職員と授業者のTTによる献血セミナー

北海道東川高等学校

○取組の工夫

- ・「生物基礎」の学習内容と献血セミナーとの関連を図った取組

献血セミナー

【目標】 献血の仕組みや必要性について理解し、積極的に献血に協力する姿勢を身に付ける。

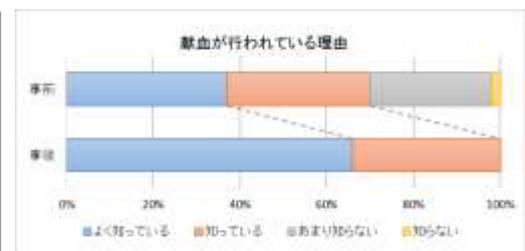
【ファシリテーター】

北海道赤十字血液センター旭川事業所 土田幸司氏

【対象】 1年次

【展開】

- 血液に関する予備知識の確認（生物基礎の復習）（授業者）
- 献血に関するイメージの発表（授業者）
- 献血セミナー（ファシリテーター）
 - ・献血は誰でもできるの？・血液は足りているの？
- グループワーク（授業者・ファシリテーター）
- まとめ（授業者）



○成果等

- ・授業で学んだ知識を日常の生活の場面で活用できることを実感することができた。

科目「保健」 / 献血セミナー

薬物乱用防止教室や「生と性に関する講演」等と関連を図った学習
北海道羽幌高等学校

○取組の工夫

- ・ 関連を図った学習
- ・ 外部機関との連携

取組の概要

【薬物乱用防止教室】

- 講師 旭川方面羽幌警察署職員

【普通救命講習】

- 講師 北留萌消防組合職員

【生と性に関する講演】

- 講師 羽幌町すこやか健康センター職員

【赤い羽根共同募金】

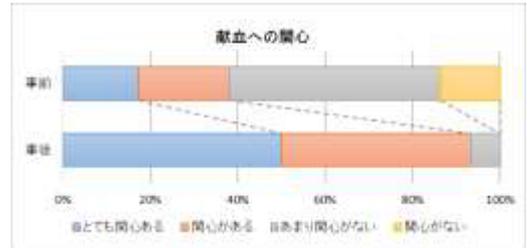
【献血セミナー】

- 講師 北海道赤十字血液センター旭川事業所 土田幸司氏

【赤十字・いのちと献血俳句コンテスト】

【献血バス（北海道赤十字血液センター）】

【科目「保健」】



○成果等

- ・ 学習を関連させることにより、献血に対するマイナスのイメージを変えることができた。

科目「保健」

献血の必要性を考えるためロールプレイングを取り入れた学習
北海道礼文高等学校

○取組の工夫

- ・ 血液センター職員との連携
- ・ ロールプレイングの実施

科目「保健」指導案（抜粋）

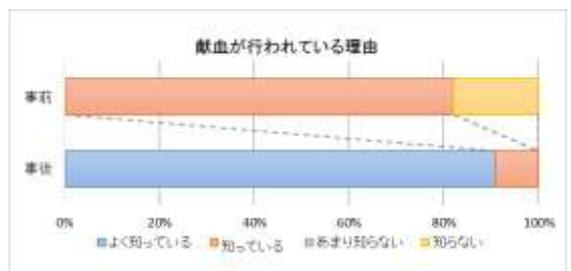
【本時の目標】

- ・ 民間機関などが行っている保健活動について、献血事業を例にその意義や制度について深く理解する。
- ・ 献血事業の現状と課題を理解し、その対策について例を挙げて説明することができる。

【対象】 2年次

【本時の展開】

- 献血事業のイメージなどを交流
- 献血について知る
 - ・ テキストの活用
 - ・ 血液センター職員による説明
- 献血の必要性についてロールプレイングを実施
「家族が事故にあい、至急血液が必要になったら？」



○成果等

- ・ 学習が一過性のものにならないような継続した指導と、地域への発信が必要である。

科目「保健」・献血セミナー

ブレインストーミングやKJ法を取り入れたグループ学習

北海道津別高等学校

○取組の工夫

- ・柔軟な発想を引き出すための取組
- ・血液センター職員との連携

科目「保健」指導案（抜粋）

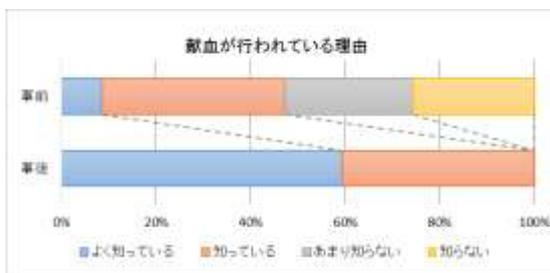
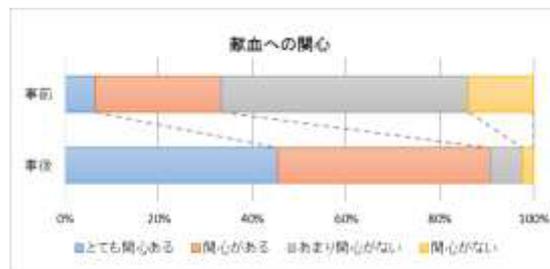
【本時の目標】

- ・献血に関する日本の現状と献血の意義について理解を深める。また、献血参加者を増やす方策について考える。

【対象】 2年次

【本時の展開】

- 献血について説明（テキスト・自作プリントを使用）
- グループワーク
 - ・テーマ「津別高校献血倍増計画」達成のために必要なアプローチを考える。
 - ・ブレインストーミング、KJ法を用いる。
- 発表



○成果等

- ・献血セミナーなどの啓蒙活動を、地域にも広げるため、高校生の果たすべき役割について考える取組を検討する。

科目「保健」・献血セミナー

自分の考えを他者に伝える場面設定を取り入れたグループワーク

北海道更別農業高等学校

○取組の工夫

- ・学習内容を深めるため、自分の考えを他者に伝える場面を設定

科目「保健」指導案（抜粋）

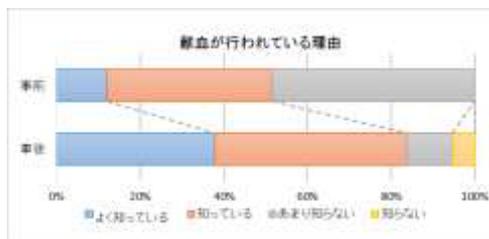
【本時の目標】

- ・献血事業の内容を理解する。

【対象】 2年次

【本時の展開】

- 事前アンケート結果の提示
- 献血について説明
- グループワーク
 - ・グループごとに交流しながら、ワークシートに記入し、説明内容の定着を図る。
 - ・グループごとに振り返りを行う。
- まとめ



○成果等

- ・地域の献血率が高いことから、地域と連携し、学校全体の取組として献血に関する学習を継続する必要がある。

科目「保健」 / 献血セミナー

テキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」を活用した事前学習

北海道釧路江南高等学校

○取組の工夫

- ・ テキストを教材とした事前学習を実施

献血セミナー

【目標】 将来の献血を支える高校生等の若年層に対して、献血の意義や制度などについて理解を深める。

【講師】 北海道赤十字血液センター釧路事業所 斉藤孝氏

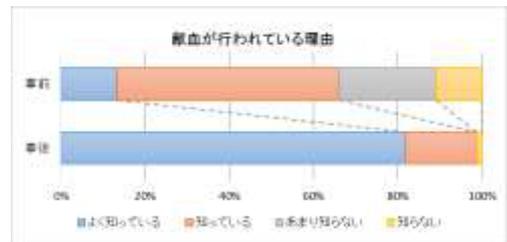
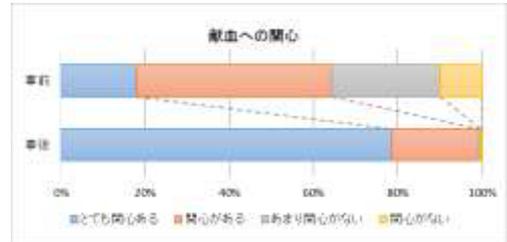
【対象】 1・2年次

【内容】

- 献血推進映画「ダブルスカイ」（日本赤十字社）上映
- 講演「献血事業の意義、現状と課題」

【配慮事項】

- 事前アンケート実施の際に、血液の話聞くことにより貧血を起こしてしまうなど、セミナーに参加できない生徒がいる場合には把握し、個別に対応した。



○成果等

- ・ 若者の献血者を増やすための方策について、グループワーク等の手法により、生徒自身に考えさせる取組が必要である。

科目「保健」

献血の必要性について考えるグループワーク

北海道根室高等学校

○取組の工夫

- ・ 知識の深化を図るために動画を活用
- ・ 献血、輸血の歴史を紹介

科目「保健」指導案（抜粋）

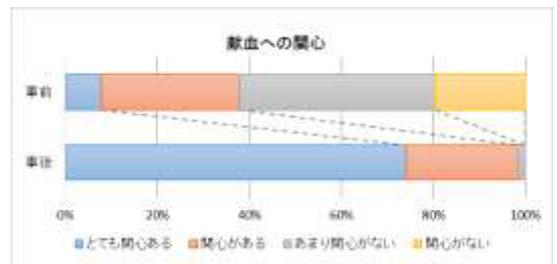
【本時の目標】

- ・ 献血に関する知識を深め、血液製剤不足が他人事ではなく、自分たちの問題として捉えることができる。

【対象】 2年次

【本時の展開】

- 少子高齢化が引き起こす様々な問題の中に、献血が含まれることを知る。
- グループワーク
 - ・ なぜ献血が必要か？など献血の現状について考える
 - ・ 動画を見て、現状と課題を復習する
 - ・ 献血者数・量の減少の原因を考え、どうしたら献血者を増やすことができるか考える



○成果等

- ・ 授業を通して、生徒の献血に対する関心が高まったことから、今後は、若年層の献血率向上に向けた効果的な宣伝方法を模索する必要がある。